

高山別院報恩講 帰敬式執行

67名の方が受式

今年より新たに

真宗公開講座「無料聴講証」・「法名額」を

記念品として贈呈

■別院での帰敬式執行

今年度も高山別院報恩講において帰敬式が執行され、67名の方が受式されました。

1月3日午前9時半、帰敬式の執行が始まり、お一人お一人に鍵役により剃刀がなされ、お一人お一人に鍵役から法名が授与されます。この剃刀と法名授与が、静寂の中、厳粛な中で執行されました。

法名授与の後、正信偈、念仏和讃(「三朝浄土の大師等」次第三首)の次第で、鍵役調声により勤められ、休憩ののち、三島輪番から「真宗門徒」を題に法話がありました。

休憩時間や法話後、受式者の多くの方が、住職とともに御本尊の前で記念撮影をされている様子が、受式の慶びを盛り立てていました。

■帰敬式受式記念品-「聴講証」と「法名額」

帰敬式推進室では、このたびの高山別院帰敬式において、新たな取り組みを始めました。それは、受式者の皆さんが受式して終わりとならぬよう、仏弟子として新たに歩みだしていただくことを願う二つの贈り物です。

一つは、高山別院で全7回開かれる「真宗公開講座」の無料聴講証です。お話を聞くには聴講料が必要ですが、年度内に限り無料で聴講いただける証書

(券)を発行し、受式者にお渡ししました。

飲食店などで「〇〇無料お試し券」をもらうことがあります。それと重ね、仏法を聞くのに無料でお試しとはけしからん、と思う方がおられるかもしれません。しかし、試して「これは美味しい(味わい深い)。次も食べたい(聞きたい)」となる方が一人でも生まれたならば、手段に多少の問題があったとしても、次につながる大切な聞法のご縁が結ばれた事実は、何ものにも代えがたいものとなるのではないのでしょうか。

もう一つは、いただかれた法名紙を日頃から目につく場所に掛け置く「法名額」を作成し、記念品としてお渡ししました。

ともすると、法名紙をそのままお内仏や引き出しにしまいこみ、中にはご自身の法名を忘れてしまう方もおられます。親の願いがかけられた名前と同じように、法名は仏さまの願いと誓いがかけられた名であります。常に目にすることで仏さまの願いと誓いに触れ、仏弟子(真宗門徒)の自覚が「法名」によって呼び覚まされていくことを念じております。

なお、「法名額」につきましては、過去に受式された方や今後別院以外で受けられる方が希望される場合は、有料でお分けしたいと考えております。詳細につきましては今後検討したうえで改めてお知

らせいたしますので、ご門徒さんや各寺・各組より要望がありましたら、センターまでご相談ください。

■各組でも帰敬式法座の実施を!

帰敬式推進の事業として、帰敬式法座があり、各組で帰敬式受式者を対象に、開催を奨励しています。しかし諸般の事情により開催が難しい状況にあり、2023年度の実施は3カ組でした。組で実施する帰敬式法座について、内容としては「お内仏のお給仕講習」をおすすめしており、受式者一人一人と住職とが「共に仏弟子である」ことの確かめの場となることが願われます。可能な形で実施の試みに踏み出していただくことをお願いいたします。

■近年の受式者数の傾向

コロナ以前からの傾向として、全国的に帰敬式の受式者数が減少傾向にあります。宗派が提唱した帰敬式実践運動発足の直後、受式者数は1万人を超えていましたが、2023年度の受式者は約5500名で、大幅に減少してきています。また近年の傾向として、本山での受式者数を本山以外での受式者数が上まっています。

御遠忌の厳修やコロナなど社会状況もあり、数字だけで話は出来ませんが、減少の背景に何があるのか、確かめていく必要があるでしょう。

高山地区帰敬式受式者 今年1月1日~11月末
本山/16名 別院/67名 寺院/81名 合計/164名



今年、受式者への記念品として贈呈された「法名額」(写真は、実際にご家庭で使用されているもの)

「法名額」は、吉城山ゆり学園(飛騨慈光会)で製作いただきました

飛騨御坊真宗教化センター
帰敬式推進室

謹んで 新年のご挨拶を申し上げます

2025年元旦

飛騨御坊真宗教化センター・高山別院照蓮寺

★センター・別院からのお知らせ★

高山別院報恩講反省会 参詣を促すことを期し、報恩講日程の検討を行う。

12月9日、本年度、高山別院報恩講の反省会が開催され、各パートの責任者が出席し意見交換が行われました。冒頭、三島輪番からは、各パート同士の連絡がスムーズに行われているのか問題提起がなされ、来年の報恩講からは、事前に密に連絡を取り合っ

て報恩講厳修に向かってもらいたいとお願いがありました。なお、提起された反省点の大きなものとして参詣者の減少があり、特に3日の結願法要が著しいとの指摘がありました。これについては、参詣を促すため何が必要であるのか話し合われた中で、報恩講日程を点検することの必要性が提起されたことから、今後、関係者とともに検討できる場を開いてまいります。

自動車専用門扉を修復-明るくなったと評判

このたび、自動車専用門の門扉が修復されました。自動車専用門は、鐘楼堂が完成した昭和49年に設置されており、約50年が経過していました。近年、鉄扉の腐食が著しく、安全面において問題となっていました。

新たな門扉板は木製で、軽量化がされ扱いやすくなりました。クリア塗装であるため、これまでと大きくイメージが変わり、明るくなったとの声も聞かれます。



